

教科	前年度正答率(%) 【全国比(P)】		課題となる 観点	問題番号・出題のねらい <学習指導要領>	前年度自校正答率 【全国比】	児童生徒の誤答の傾向と分析(○)、教育指導上の要因分析(●)	課題改善のための<指導場面(指導時期)>と具体的な取組	目標値	検証値
国語	教科全体	81.0【+6.2】	知識・技能	・身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。<小学校1・2年知技(1)オ> ・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。<小学校1・2知技(2)ア>	54.5 【-18.2】	○ヒントにあうことばから「たんぼぼ」という言葉を考えることができない児童が半数近くいた。「ほうし」という言葉に関してはほぼ全員が正答していることから、認識している言葉に偏りがあると思われる。また、情報と情報の関係を漏らさずに言葉を選ぶことができていない児童が半数近くいた。 ●国語科の授業で扱うことばについての基本的な意味合いは学習することができているが、ことばと具体をつなげたり、活用を広げたりするなどの活動が不十分であった。	<全般(通年)> ・ことばを扱う単元や物語文・説明文などの学習で、ことばと意味を確実につなげる活動を継続して行う。 ・教科の横断的な学習時においても、新たなことばを獲得できる機会を逃さず、意識して学習する機会を図る。	正答率 75%	% 【P】
	知識・技能	79.3【+0.3】							
	思考・判断・表現	79.9【+11.2】							
	主体的に学習に取り込む態度	89.1【+25.8】							
社会	教科全体	【】	<>			○ ●	<(月)>	正答率 %	% 【P】
	知識・技能	【】							
	思考・判断・表現	【】							
	主体的に学習に取り込む態度	【】							
算数 / 数学	教科全体	85.6【+7.4】	知識・技能	・文章問題(3口の加法の場面)を解くための立式をしている。<小学校1年A(2)イ(ア)、ア(イ)> ・文章問題(3口の加法の場面)を解くための立式した(1けた)+(1けた)+(1けた)=(1けた)の式から、正しい答えを求めることができる。<小学校1年A(2)ア(ウ)>	36.4 【-10.9】	○場面に合わせて3口の加法の立式ができない児童が半数強いる。そのため、正しい答えにも行きついていない。 ●「3つのかずのけいさん」の単元テストでは、ほとんどの児童が理解している状態であった。(知識・理解 91.8/100点満点 思考・判断 48.0/50点満点)単元学習時だけでなく、場面から式に変換する際の意味づけの指導の継続が不十分であった。	<足し算・引き算・掛け算の授業(通年)> ・場面と式の変換時には、ノートになぜその式になるのかその根拠を場面図や絵と必ず関連付けて明確にする、また、その根拠を、ことばでまとめたり、説明させたりする。	正答率 55%	% 【P】
	知識・技能	86.7【+6.7】							
	思考・判断・表現	81.8【+10.4】							
	主体的に学習に取り込む態度	71.7【+8.5】							
理科	教科全体	【】	<>			○ ●	<(月)>	正答率 %	% 【P】
	知識・技能	【】							
	思考・判断・表現	【】							
	主体的に学習に取り込む態度	【】							
英語	教科全体	【】	<>			○ ●	<(月)>	正答率 %	% 【P】
	知識・技能	【】							
	思考・判断・表現	【】							
	主体的に学習に取り込む態度	【】							